

## 事務係長

介護に関する感動、学んだことを文章にするには「これです」と言えるものが乏しく難しいです。ショート送迎や受診での少しの関わりの中で、面白いことばかり言われる入所者さんや、にっこにっこされているだけで、自分の眉間にシワがよったのを元通りにしないと思えたりなど、そんなわずかな関わり方です。

お金儲けをする仕事に良い悪いの仕事はないと思います。人をこらしめる悪どいことでなければ。色々な仕事があると思います。世の中には好きで自分の仕事をしている人、そうでもないけど、その仕事をしている人、何となくとりあえず仕事をしている人。自分がこれだと思う仕事を見つけるのに、若いうちならば多少迷っていいと思います。

私も今の自分の仕事があっているのかどうか分かりません。今に至るまでは、当時は社協でしたが、それまで勤めていた職場が約 50 分掛かり、通勤だけで大変だったこと。

地元で働いて、当時は家族の中で地元で働いているということで認められたいという勝手な切符のようなものが欲しかったのかも知れません。私はそのような思いで、今現在があります。家から近いこと。人間相手の仕事がしたかったこと。

介護の仕事は物を売ってその対価をもらう商売とも違うし、機械を相手に黙々とする仕事とも違う。学校のようにこれから学び、成長していく人との関係ある仕事とも違う。その人の生活歴に関わることができ、老いていく姿を直視していき、もしかしたら最終的にその人の「最期」を見送らせてもらうことになる。病院は、治療を目的にそれをゴールだけのその人との関わりだけど、介護現場は自宅では生活が難しいことで苑に入所された人との関わりとなってくる。

現場職員は色々なことを考えながら、多職種の人と連携してケアしていると思います。その人にとってどうすればいいケアが出来るか？その人の気持ちに寄り添えるか？いくらでも可能性がありそうで、奥深いものだろうな…と思います。ケアにはきっと今の時代には考えつかないようなことがあるかもしれないと思うこともあります。そう思うと、この世界は魅力的と思ったりします。ただし、それはケアする人が人間的に情が厚かったり、本当の意味で心優しかったり、素直だったり、そしてユーモラスというのがとっても大事で、きっとこれは何にも通じるとは思うのですが、これがないと長続きがせず、その人を知りたいな…、近づきたいな…と思うことから離れていきます。とにかく、人気のない介護の仕事ですが、これだから、ここが重要で、笑寿苑の中には、そんな人が何人か居ると思います。

私は人と比べて感じ方が鈍いのかな、と思うことがあります。なのですが、福祉施設の中で感じることは、男性の介護職員が優しいということでした。

「この人が居て、会いに来た」と言われる入所者・利用者さんがおられ、すごくうらやましいです。

言葉かけ・呼びかけ・寄り添い方とか。女性は同性だからか気づかないだけなのか、

逆に元気パワー全開！みたいな人が多いように思います。男性は力強く、やさしい。きっと若い女性が就職されると、そこに感動するのではないかな、と思います。

辛いことといえば「給与」のことです。給与計算をしている者として感じます。介護職は低賃金に対して、仕事内容が大変ということ。これから国は介護職員を増やしていくというけれど、その兆しはうすい様です。

介護の仕事の素晴らしさがなかなか書けなくてすみません。

人によって介護の仕事がしたくて、介護の道を選ぶ人、迷いながら介護の道を選ぶ人、いろいろなスタートがあると思います。

地道に、なるべく謙虚な気持ちを忘れず、なるべく汗を流して、雑用はなるべくすすんで（雑用という仕事はないと思いますが）そんな思いがあれば、どんなことでも大抵やっていける。きっととても難しいことがあって、どうしようもなくなっても、なぜか助けてくれる人が出てくる。今の私には程遠いところですが、口の悪い私の母からの教えが基にあったりします。